

けんしゅうしましよ

3号

R6. 7. 22

文責 岩井

5・6年生情緒学級

単元名 自立活動
「信用貯金を貯めよう」

授業者 佐藤 太紀



児童の実態を大切に、「信用貯金」を切り口に一人一人が目標をもって日常から自分を変える意識をもってほしいという強い願いをもって、授業を構築した佐藤先生。たくさんの学びがあった授業でした。大変忙しい中、授業を公開してくださった佐藤先生、誠にありがとうございました。

児童に応じた手立ての工夫や 自己肯定感を高める工夫として

- ・視覚化の工夫（写真やイラスト）がよかった。具体的な姿が提示されることで、子どもたちが「信用」をよりイメージしやすくなっていた。また、児童の日常のすてきな姿を紹介することで、子ども自身が自分を客観的に捉え、自己肯定感を高めようとしていたのがすばらしかった。
- ・事前にロイロノートを使った自己認知により、今回、自分のできるようになりたいことを書くことができていた。佐藤先生も話していたが、自己認知が自己肯定感を高めるのにはとても重要であることを踏まえると、今回のようなロイロを使った自己認知の方法も一つの手段として効果的であった。
- ・児童にとっては当たり前のようなことも、がんばりや成長として捉えられるようにポジティブな声かけをしていたのがよかった。
- ・落ち着いた学習環境、温かい雰囲気児童が安心して学べる環境がある。日常的の学級経営における指導の積み重ねが見られた。

今後に向けて

○何を指して自立活動に取り組むのか

「幸せな生活を送る上でこうなったらいいな」を般化していく。立ち返る目標（願い）が、児童の主体意識へ。

○行動を般化する仕組みを

日常の取組と振り返りを大切にする。ここが一体化することで児童が「できるようになった」を自覚する。そのため的手段として、写真などの活用が挙げられる。

○児童をサポートしていく存在に

自分自身のとった行動がどうだったかを振り返る中で、良い面は大いに認め、課題面は次へのステップへと進めるように一緒に考えてあげる。

大島先生 のぞみ学級「じぶんのきもちを あらわしてみよう」

簡単な気持ちの言葉の種類について知り、ロールプレイを通して表現することで、普段の生活の中でも自分の気持ちを表現できるようにする（良好な学校生活を目指して）

（今後の授業づくりに関連し）自己肯定感を高めていくために

- ・大切なのは一時間一時間の積み重ね
- ・本時の活動の中にも「人と関わる活動」を組み込むようにしてほしい
ただし



長期的な視野に立って児童の成長を考えていくことが大切です。

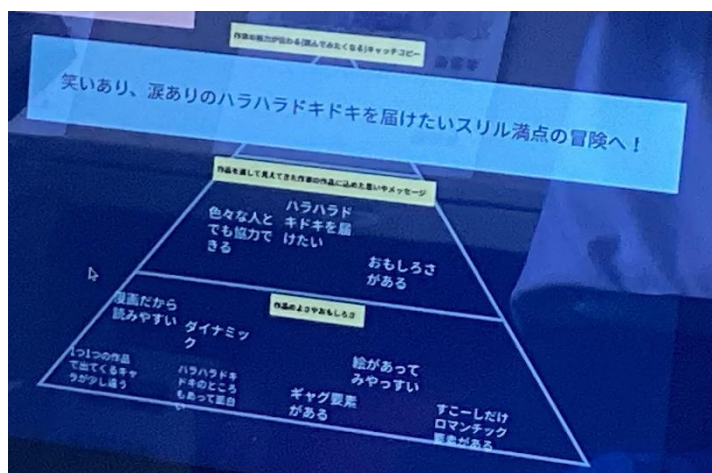
自己肯定感を①「満足感・達成感・自己有用感」 ②「自己理解（長所・短所を含めての自分）」という2つの側面から捉え、それら高め
る授業を目指していきましょう。

斉藤先生 5年1組「本は友達 作家で広げるわたしたちの読書」

タブレットを使うよさは？

- ・書くことが苦手な子も、タブレットを使うことで常に思考し続けている。
- ・ピラミッドチャートやチャット GPT で作ったフレーズ集が効果的だった。思考の手助けになっていた。
- ・子どもたちが操作に慣れている。今までの積み重ねがあるからこそ。
- ・修正が簡単にできるので、気楽に書くことができる。
- ・作ったものを、その場ですぐにみんなで見合えることができる。

上記のように、タブレットを使うことのよさをたくさん発見できた一方で、言葉によるコミュニケーションの大切さについても意見が出されました。豪先生からも子どもたちの様子を見ると、「タブレット対自分になっている」というお話がありました。作業がどんどん進んでいく中で、一度立ち止まって考えを交流する時間や、出来上がった作品を見直す時間を設けることも大切かと思えます。その中で、対話の手段としてタブレットを用いる姿が増えると、より深い学びへとつながるのかなと思えます。



ポイント！

- ・個別最適な学びと協働的な学びが一体となること
- ・タブレットを使うことで、子どもが主役となる授業（教師は伴走者として）
- ・子どもが日常的にタブレットを使えるようになること